

財団法人 万有生命科学振興国際交流財団

平成 21 年度事業報告書

I. 事業報告

1. 研究者交流事業

海外研究交流助成

- 1) 循環器病領域における平成 22 年度 BANYU FELLOWSHIP PROGRAM の奨学生募集を平成 21 年 4 月から 9 月まで行った。同 PROGRAM の選考委員会が平成 21 年 11 月 2 日に開催され、下記のとおり 5 名の奨学金交付者が決定された。

小田 哲郎 山口大学大学院医学系研究科 器官病態内科学

研究テーマ：蛍光共鳴エネルギー移動(FRET: Fluorescence resonance energy transfer)法を用いた心不全・致死的不整脈におけるリアノジン受容体機能異常のメカニズムの解明

留 学 先：University of California, Davis School of Medicine

佐原 真 東京大学医学部附属病院 循環器内科

研究テーマ：成熟心筋細胞・血管内皮細胞に至る各発生段階における新たな心筋・血管内皮前駆細胞マーカーとそれぞれの段階における発現遺伝子プロファイリングの同定

留 学 先：Massachusetts General Hospital / Cardiovascular Research Center
Department of Cell Biology, Harvard Stem Cell Institute

廣野 恵一 富山大学 医学部小児科

研究テーマ：川崎病急性期における micro RNA による炎症の制御機構の解明

留 学 先：Cincinnati Children's Hospital Medical Center
The Heart Institute, Division of Cardiology

堀口 真仁 京都大学大学院医学研究科 循環器内科学講座

研究テーマ：潜在性 TGF β 活性化による AT-1 受容体および MMP の制御がマルファン症候群において果たす役割の解明

留 学 先：New York University School of Medicine, Department of Cell Biology

矢野 俊之 札幌医科大学 医学部内科学第 2 講座

研究テーマ：リン酸化 GSK-3 β によるミトコンドリア透過性遷移孔開口抑制の分子機構の解明

留 学 先：Johns Hopkins University, Department of Pathology

- 2) 疫学・生物統計学領域における平成 21 年度 BANYU FELLOWSHIP PROGRAM については、平成 21 年 4 月 21 日に選考委員会が開催され、下記 2 名の奨学金交付者が決定された。またこの選考委員会において、平成 22 年度募集から募集期間を短くし年度内に受賞者を決定できるよう応募・選考のスケジュールを変更することが決議された。これにより平成 22 年度の奨学生募集は平成 21 年 4 月から 9 月に、選考委員会は平成 21 年 12 月 7 日に開催され、下記 1 名の奨学金交付者が決定された。

平成 21 年度

稲本 賢弘 名古屋大学大学院医学系研究科血液・腫瘍内科学

研究テーマ：同種造血幹細胞移植の長期的治療成績と QOL を改善するための臨床疫学研究

留 学 先：Fred Hutchinson Cancer Research Center, Clinical Research Division

秦 淳 九州大学大学院医学研究院社会環境医学講座 環境医学分野

研究テーマ：高血圧と糖尿病の治療に関する大規模臨床試験のメタアナリシスを用いた心血管病発症予防のエビデンス

留 学 先：The George Institute for International Health, University of Sydney,
Neurological & Mental Health Division

平成 22 年度

菱田 朝陽 名古屋大学大学院医学系研究科予防医学/医学推計・判断学教室

研究テーマ：がん予防のための大規模ゲノムコホート研究における解析手法に関する研究

留 学 先：Division of Epidemiology, Gillings School of Global Public Health
University of North Carolina, Chapel Hill

2. 知識思想の普及啓発事業

学術講演会の開催助成

平成 21 年度に計画していた 4 つの有機合成化学シンポジウム（福岡、仙台、札幌、名古屋）は、全て盛況の裡に開催された。名古屋メダルセミナーでは、ゴールドメダルが世界的に著名な米国カリフォルニア大学バークレーの Jean M. J. Frechet 教授に、シルバーメダルが東京大学大学院工学研究科の野崎京子教授に授与され、受賞講演と授賞式が執り行われた。有機合成化学分野のシンポジウムの参加者は、昨年を上回る 1,640 名の参加を得た。

平成 22 年度に実施予定の「20 周年記念万有福岡シンポジウム」、「第 21 回万有仙台シンポジウム」、「第 22 回万有札幌シンポジウム」については、それぞれの組織委員会でシンポジウム内容の検討が行われた。

学術講演会の名称	開催日	会場	参加人数
第 19 回万有福岡シンポジウム	5 月 23 日(土)	九州大学医学部百年講堂	560 名
20 周年記念万有仙台シンポジウム	6 月 13 日(土)	仙台国際センター	480 名
第 21 回万有札幌シンポジウム	7 月 4 日(土)	北海道厚生年金会館	370 名
第 15 回名古屋メダルセミナー	11 月 16 日(月)	名古屋大学野依記念学術交流館	230 名
合 計			1,640 名

平成 18 年度までの事業として当財団が主催してきた「製剤研究フォーラム」および「創薬工学シンポジウム」に代わり、平成 19 年度から 3 年間日本薬剤学会主催「大学院学生主催シンポジウム (SNPEE)」および化学工学会主催「創薬工学シンポジウム」開催の助成を行ってきた。両シンポジウムとも各学会内で継続して開催される事となったため、当財団による助成は本年度をもって終了した。

学術講演会の名称	開催日	会場	参加人数
第 4 回 SNPEE* 2009	5 月 23 日(土)	静岡県コンベンションセンター	約 100 名
第 9 回創薬工学シンポジウム	11 月 26 日(木)	神戸国際会議場	約 70 名
合 計			約 170 名

* : **S**tudent **N**etwork for **P**harmaceutical **E**ducation and **E**volution

有機合成化学シンポジウムの連携と更なる充実を目的に、平成 18 年 1 月に設立された「万有シンポジウム連絡協議会 (野依良治先生他 10 名の有機合成化学研究の第一人者で構成)」の第 4 回会合が平成 22 年 2 月 6 日に開催された。

3. 研究助成事業

a) 基礎及び応用研究助成

1) 日本計量生物学会へ奨励賞の助成を行った。

2) Lectureship Award MBLA & Banyu Chemist Award (BCA)

『Lectureship Award MBLA』は日本の有機合成化学分野における若手研究者の独創性を喚起し、国際的に活躍できる人材を育成することを目的とする顕彰である。これまで非常に高いレベルの応募が多く書類選考を通過した者も表彰に値するとし、平成 21 年度より書類選考通過者を新たに『Banyu Chemist Award (BCA)』として表彰する事を開始した。

平成 21 年度公募も、大学の助教から准教授クラスの非常に実力のある多数の研究者から応募があり、書類選考を通過した下記 5 名が『Banyu Chemist Award (BCA) 2009』として表彰された。面接選考会は平成 21 年 12 月 5 日に開催され、京都大学大学院工学研究科の助教中尾 佳亮 氏が『Lectureship Award MBLA 2009』に決定した。受賞講演と授賞式は平成 22 年 7 月 3 日開催の第 22 回万有札幌シンポジウムで举行される。また、中尾 佳亮 氏

は平成 22 年 10 月に米国の著名な大学、研究所での講演ツアーを行う予定である。

『Lectureship Award MBLA 2008』受賞者の東京工業大学大学院理工学研究科 准教授 大森 建氏は平成 21 年 10 月に計画通り米国の講演ツアーを終えた。

Lectureship Award MBLA 2009

- 中尾 佳亮（京都大学大学院工学研究科）

Banyu Chemist Award (BCA) 2009 受賞者

- 坂倉 彰（名古屋大学 エコトピア科学研究所）
- 辻 勇人（東京大学大学院理学系研究科）
- 中尾 佳亮（京都大学大学院工学研究科）
- 松永 茂樹（東京大学大学院薬学系研究科）
- 山下 恭弘（東京大学大学院理学系研究科）

4. 青少年に対する社会教育事業

青少年国際交流助成

青少年の健全な育成と国際交流を目的とした NPO 環太平洋学生キャンプに対して助成を行った。また、カンボジアのプノンペンにて、孤児への救済事業を行っている政府公認団体である JBCF (Jeanne and Billy's Children Foundation) の財政支援をおこなっている Footy Japan に対して助成を行った。

5. 「万有財団の歩み」の発行

万有財団が行う社会貢献活動の認知度を高めるため、これまでの事業内容及びその成果をまとめた「万有財団の歩み」を発行した。事業関係者、関係団体他 合計 400 部超の配布を行った。

II. 管理業務報告

1. 高橋希人評議員の辞任に伴い、平成 21 年 5 月 18 日に開催された第 17 回理事会にて、福井次矢氏が評議員に選任された。
2. 長坂健二郎会長兼理事長の平成 21 年 5 月 31 日付辞任に伴い、平成 21 年 5 月 18 日に開催された第 17 回評議員会及び理事会にて、万有製薬 執行役員の小谷秀仁氏が平成 21 年 6 月 1 日付で新たに会長兼理事長に就任することが決議された。
3. 平成 21 年 5 月 18 日に開催された第 17 回評議員会および第 17 回理事会において、「平成 20 年度事業報告及び収支決算」が承認され、文部科学大臣に届け出た。

4. 平成 21 年 9 月 7 日に開催された第 18 回評議員会および第 18 回理事会において、公益財団法人への移行認定に向けた「最初の評議員の選任方法（案）」が承認され、文部科学大臣に届け出た。
5. 平成 21 年 12 月 16 日付けで、文部科学大臣から「最初の評議員の選任方法」に関する認可を得た。
6. 当財団は、平成 18 年及び平成 20 年に文部科学大臣から特定公益増進法人として認定を受けていた。認定後 2 年が経過するので平成 22 年 3 月 3 日に特定公益増進法人であることの証明申請書を再提出し、平成 22 年 4 月 2 日付で文部科学大臣より特定公益増進法人であることの証明書が交付された。
7. 平成 22 年 3 月 25 日に開催された第 19 回評議員会および第 19 回理事会において、「平成 22 年度事業計画及び収支予算書」が承認され、文部科学大臣に届け出た。